



縄文土器のおはなし。

そもそも「縄文」とは？

植物の繊維を撚った縄（原体）を土器の表面に押し当てたり、ころころと転がしてできた「縄目の模様」のことを「縄文」とよびます。

その縄目の文様がついた土器を「縄文土器」といい、縄文土器が盛んに作られた時代を「縄文時代」といいます。



これが「縄文」。

コロコロ...
原体を転がして
いるところ。

土器は縄文人の大発明！

縄文土器の発明によって「煮る」という方法が可能になり、それまで渋くて食べられなかったドングリ類やトチの実などのアク抜きができるようになったり、長時間煮込むことで堅い肉を柔らかく調理できるようになりました。土器は食べることでできる動植物の量と種類を格段に増やし、食生活を向上させた縄文人の大発明といえるのです。

縄文土器は煮炊き用の鍋のほか、盛り付けるための食器、ドングリなどの貯蔵、そして亡くなった赤ちゃんや子どもの棺としても使われました。



大人も夢中に...！



より高みを目指して！

今年の通常コースは、初参加の方が多く、土器作りの匠・菊地逸夫先生（元・東北歴史博物館）から丁寧に作り方を教わりながら、土器作りを進めました。

子ども達のオリジナリティあふれる形や装飾は目を見張るものがありました。意外にも熱中していたのは大人のほう！作っていくうちに「こんな形や装飾をしてみたい！」とアイデアが浮かび、先生やスタッフに相談しながら作る姿が印象的でした。

縄文村開館当時から続く長寿イベント！



縄文時代のくらしを3回にわたって体験するイベント「縄文教室」。7月19日、20日の2日間、初回の土器作りを開催し、県内外から42名が集まりました。

縄文教室

はじまる！

初心者も夢中に！

縄文人に
近づけるか？
限界に挑む！

一方、本格コース10名の皆さんは、参考資料や土器のレプリカを観察しながら、土器作りに打ち込みました。

今年も力作ぞろいとなりましたが「何度やっても形が上手くない」「文様のバランスが難しい」と、納得できていないよう...

今年で5年目となった本格コース、更なる高みを目指したい皆さんでした。

今回作った土器は乾燥させ、9月上旬に野焼きをする予定です。



お知らせ



史跡指定 30 周年・市制 20 周年 記念企画展

ぐるり 里浜貝塚

－発掘成果と史跡活用の足あとを辿る－

Part 1：2025年8月8日(金)～12月6日(土)

Part 2：2025年12月7日(日)～2026年3月29日(日)

会場：奥松島縄文村歴史資料館

※Part1、Part2で一部展示品が入れ替わります！

令和7（2025）年、里浜貝塚は史跡指定から30周年を迎えました。そこで30周年の節目として、本企画展ではこれまでの発掘調査で分かった里浜貝塚の姿から体験イベントなどを通じた史跡活用までを、「ぐるり」と紹介していきたいと思ひます。



9月の土日体験について

9月はイベントや出張体験が集中しているため、土日祝日に行っている縄文体験は休止します。

【奥松島縄文村まつり】 日程変更のお知らせ

「生涯学習カレンダー」および「縄文村イベントカレンダー」では11.9(日)としておりますが、

11.16(日)に変更します！